

平成 15 年 9 月 8 日

## 池袋で映画を観よう！

### 池袋駅周辺の映画館が連携、「池袋シネマ振興会」結成

#### 地元立教大学出身・青山真治監督作品「月の砂漠」公開スタート

- 「月の砂漠」ロードショー期間 9月6日(土)～10月3日(日)
- トークショー・スケジュール \*各回とも第1回上映(10:00AM～)終了後
  - 9月13日(土) 青山真治監督&中原昌也氏(作家、ミュージシャン)
  - 9月15日(祝) 高野之夫豊島区長、仙頭武則プロデューサー&高田建夫氏(立教大学広報課)
  - 9月20日(土) 青山真治監督&前田英樹氏(立教大学文学部教授)
  - 9月23日(祝) 青山真治監督&立教大学映画研究会学生

「映画の街・池袋」をアピールし、映画館の活性化と映画による街づくりを図ろうと、池袋駅周辺の9つの映画館が連携、「池袋シネマ振興会」を結成した。その共同事業第一段として、「池袋で映画を観よう！」というキャッチフレーズに9館の館名を連ねたステッカーを制作し、PR活動に乗り出した。

近年、池袋に乗り入れる私鉄沿線にシネマコンプレックス(多スクリーンを有する複合型映画館)が相次いで誕生し、池袋の在来映画館の客足にも影響が出はじめている。こうした動きに対抗するため、駅周辺の9つの映画館が連携、地元映画館の活性化と映画の街としての池袋のプライオリティ向上をめざし、本年6月に「池袋シネマ振興会」を立ち上げた。「池袋東急」「シネマサンシャイン」「テアトルダイヤ」「池袋HUMAXシネマズ4」などの大手配給映画上映館のほか、池袋名画座の代名詞であった文芸坐の伝統を引き継ぐ「新文芸坐」、そして「シネマロサ」「シネリーブル池袋」「テアトル池袋」「シネロマン池袋」など独自路線の個性的なプログラムを上映する各館が、それぞれの単館映画館としての特徴を活かしながらも、営業分野の枠組みを越えて共同で行なえる事業の可能性を模索してきた。

こうした中、今月9月6日より、テアトル池袋(南池袋1-19-5)で、地元立教大学出身の青山真治監督作品「月の砂漠」がロードショー公開されるのを機に、シネマ振興会の共同事業第一段として、振興会のステッカー150枚を制作、映画のポスターに貼り、「映画の街・池袋」をアピールする。今後はさらに実現可能な共同事業を検討し、予告配信やキャンペーン情報などを提供する共通情報チラシの発行やポータルサイトの立ち上げ、さらに共通チケットや映画館スタンプラリーなどのキャンペーン事業についても実現化をめざしていくという。

また、今回の「月の砂漠」上映にあたっては、青山真治監督の出身大学である立教大学も特別協賛に加わった。立教大学からは青山真治監督はじめ、1996年制作「Shall we ダンス？」で日本の映画賞を総なめにした周防正行監督、同大学サークル「立教セント・ポール・プロダクション」の活動の中から黒沢清、塩田明彦、篠崎誠…と、まさに現在の日本映画界をリードする新進気鋭の監督たちが、文字通りキラ星のごとく輩出されている。こうした数多くの才能の誕生には、同大学の自由な学風が少なからぬ影響を与えたものであると、同大学では、大学と地域との連携の一貫として今回の特別協賛を決定したほか、2006年度を目処に映画・映像に関する新たな学部・学科の創設をもめざしており、まさに池袋発・映画文化発進の大きな可能性の舞台が開かれることになる。

こうした街や地元大学の動きに呼応し、「文化の風薫るまち としま」をめざす区もバックアップに加わった。振興会の事業を後援するほか、各種行政イベントとの連動など、さまざまな方法でサポートしていく予定である。

「月の砂漠」上映期間中には、高野之夫豊島区長参加のトークショーも行なわれる。また、青山真治監督と立教大学生とのトークショーも企画されており、映画館と地元大学・行政がスクラムを組んだ初めての試みから、「映画の街・池袋」の未来図が描かれることになるだろう。

詳細：テアトル池袋